

■ 2019年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	総人(文) 200点、文 100点、 教育(文)・法・経済(文) 150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

昨年に比べ点数が出やすいセットであったが、実際はどうであったか。①の問1は確実に取れるとして、問2は計算が煩雑なのと無理数の評価など減点されるポイントがある。②は場合分けするだけなのだが、絶対値の中身の符号による場合分けと軸による場合分けがあり、さらに文字が2つ含まれることから難しく感じたかもしれない。③は文章の読み取りが難しく「すべて」と「ある」の意味を取り違えたりする可能性もある。④は難しい。⑤はよくある設定であるが、動くものが2種類あり、変数を問題文に見せていないため難易度が高かったかもしれない。ということから昨年並みの難易度と考えられる。

<特記事項・トピックス>

①の問2では常用対数表が与えられた。表の見方が分からない受験生もいたかもしれない。さらに、そこには「小数第5位を四捨五入し、小数第4位まで掲載している。」と書かれているので、大きめまたは小さめに評価する必要がある。計算もかなり煩雑であるので、難問であろう。

<合格への学習対策>

本年度は積分が出題されなかったが、例年確率、微分積分、図形は頻出分野である。図形分野であるが、本年は空間図形の計量の問題で、変数が与えられなかった。これは京大らしい出題である。誘導のない問題が多いのが京大の特徴であるので、普段の問題集で学習するときは誘導のありがたみを感じる事が大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
① 問1	記述		式と証明	整式の問題で実際に割り算を実行し余りを求める。	易
① 問2	記述		対数	桁数と上から2ケタの数の決定問題。無理数の評価を行う。	やや難
②	記述	I	2次関数	2つの放物線が原点でつながる絶対値つきの関数の最小値。軸による場合分けを行う。	標準
③	記述	I	2次関数	不等式を満たす x が存在する条件。「ある」と「すべて」の読み方に注意する。	やや難
④	記述	A	確率	$X_0=0$ であることに注意する。最初4以下が続き途中で5以上に一度だけ変化する状況を考える。	難
⑤	記述		図形の計量、微分	A がどのような状態で最大になるかを決定し、その状態で底面を動かして最大値を求める。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。